

平成 26 年 1 月

川西市教育委員会

〔平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果報告〕

目 次

平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

- (1) 調査の目的
- (2) 調査対象児童・生徒
- (3) 調査内容について
 - ① 実施教科等
 - ② 実施日
 - ③ 実施時間
 - ④ 実施人数
- (4) 調査結果の見方
- (5) 平成 25 年度教科に関する調査結果の概要
 - 【川西市全体のおおまかな傾向】【小学校国語】【小学校算数】【中学校国語】【中学校数学】
 - ① 教科全体の平均正答率
 - ② 領域・事項別の平均正答率
- (6) 過去 4 回の調査結果の推移
- (7) 平成 25 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要
 - ① 教科に関する調査結果において正答率が高い傾向が見られる質問項目
 - ② 本市の児童生徒が極めて高い肯定的な回答を示した質問項目
 - ③ 全国と比較して、本市の特徴的な傾向を示した質問項目

平成 25 年度全国学力・学習状況調査結果の概要

(1) 調査の目的

- ◇ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- ◇ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する
- ◇ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる

(平成 25 年度実施要領より)

(2) 調査対象

川西市立小学校 第 6 学年児童

川西市立中学校 第 3 学年生徒

(3) 調査内容等について

① 調査内容

《教科に関する調査》(国語、算数・数学)

● 国語、算数・数学

A：主として「知識」に関する問題

- 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容
- 実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能

B：主として「活用」に関する問題

- 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
- 様々な課題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力

《生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査》

● 児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

● 学校に対する調査

指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

② 実施日

平成 25 年 4 月 24 日 (水)

③ 実施時間

● 小学校

1 時限目 (45 分)	2 時限目 (45 分)	3 時限目 (45 分)	
国語A(20分) 算数A(20分)	国語B(40分)	算数B(40分)	児童質問紙 (20分程度)

※ 児童質問紙は、4時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

● 中学校

1 時限目 (50 分)	2 時限目 (50 分)	3 時限目 (50 分)	4 時限目 (50 分)	
国語A (45 分)	国語B (45 分)	算数A (45 分)	算数B (45 分)	生徒質問紙 (20分程度)

※ 生徒質問紙は、5時限目終了後以降に、各学校の状況に応じて実施。

④ 実施人数

小学校	国語A・B	算数A・B	児童質問紙
第6学年児童	1,544名	1,544名	1,545名
中学校	国語A・B	数学A・B	生徒質問紙
第3学年生徒	1,337名	1,338名	1,339名

(4) 調査結果の見方

※ 調査結果で示している平成25年度の川西市の数値は、平成25年度全国学力・学習状況調査において、本市小学校、中学校在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ ここでいう「全国平均」とは、上記同様に、平成25年度全国学力・学習状況調査において、調査対象となった全国の小中学校（公立学校）在籍の児童生徒全員（実施した児童生徒）の平均を表したものです。

※ 分析の際の基準の考え方

- 本市児童生徒と全国平均との比較は、次を基準としています。

+1.0%以上（良好）、±0.9%（概ね良好）、-1.0%以下（課題がある）

- 各教科の領域・事項については、問題数により平均正答率の差が大きくなることから、次を基準としています。

+5.1%以上（上回る）、±5.0%（同程度）、-5.1%以下（下回る）

(5) 平成 25 年度教科に関する調査結果の概要

【川西市全体のおおまかな傾向】

平成 25 年度全国学力・学習状況調査における川西市の平均正答率と全国の平均正答率の差から認められる傾向は以下のとおりです。

【小学校】

- 国語、算数の A（知識）・B（活用）の学力ともに、概ね良好です。

【中学校】

- 国語 A（知識）の学力は、良好です。
- 国語 B（活用）は、概ね良好です。
- 数学は、A（知識）・B（活用）ともに、良好です。

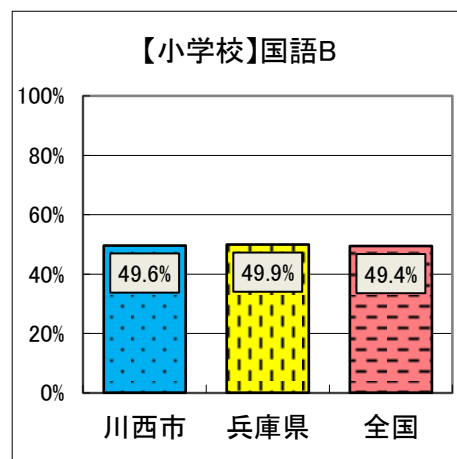
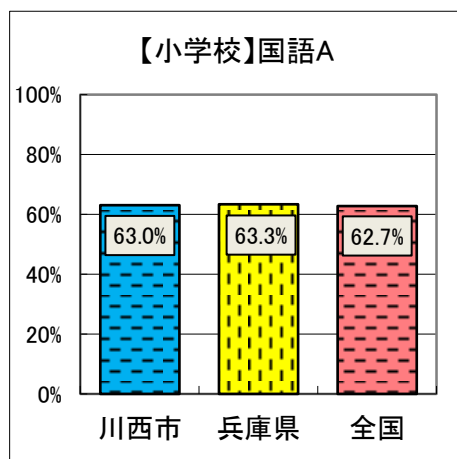
川西市の児童生徒の学力は、これまでの調査同様に教科全体としては、良好な状態であるといえます。

領域・事項別に見ていきますと、中学校数学「数と式」領域、A（知識）・B（活用）ともに全国平均を大幅に上回る結果であった一方、小学校国語 A「話すこと・聞くこと」領域の A 知識は課題が残る結果などがありました。これらについて、次ページより分析結果及び改善方法の提示などを行っています。

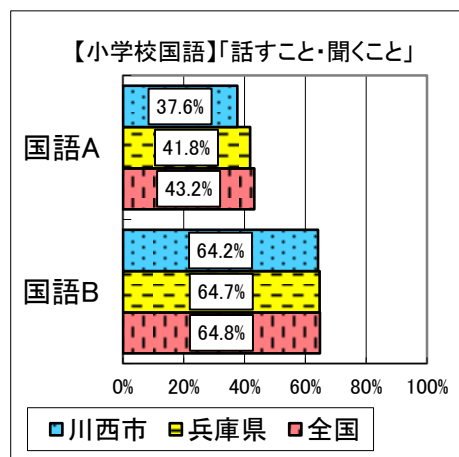
【小学校国語】

- ① 国語 A（知識）及び国語 B（活用）の平均正答率

川西市の平均正答率を全国と比較すると、国語 A（知識）は 0.3 ポイント、国語 B（活用）は 0.2 ポイント高く、A B ともに概ね良好です。



② 領域・事項別平均正答率



川西市の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は5.6ポイント低く、全国を下回る結果です。国語B（活用）は0.6ポイント低く、全国と同程度の結果です。

- ◇ (B)相手の立場や状況を感じ取って聞く。
- ◆ (A)表現の工夫とその効果について聞き取る。

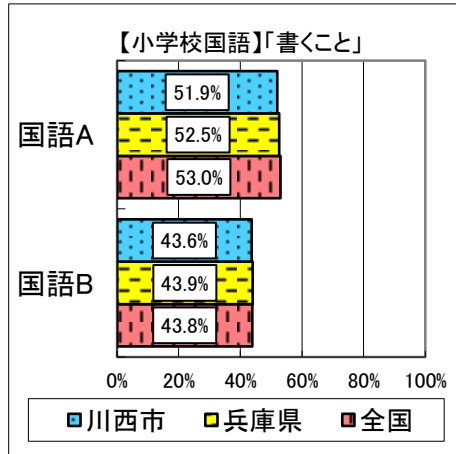
◇ 相手の立場や状況を、表情や態度、場の雰囲気などからおおまかにつかむことは多くの児童が理解しています。

◆ 国語A（知識）における「話すこと・聞くこと」について

上記しましたとおり、国語A（知識）は全国と比較して、5.6ポイント低い結果となりました。該当設問は、大問7の1問のみであり、スピーチの表現の工夫することができるかどうかを問う設問です。

具体的には、『日本中に届けます。感動、勇気、そして笑顔を見せましょう。日本の底力、絆を』をいうスピーチにおいて、表現の工夫としてなされているのは、1.比喩法、2.列挙法、3.反復法、4.擬態法・擬声法、5.倒置法の中から2つを選択するものです。正解は、2.列挙法、5.倒置法ですが、解答類型の中で全国との差が大きかったのは、無回答率（全国比+7.7%）です。このことから、表現とその工夫の方法自体を理解することに課題があります。

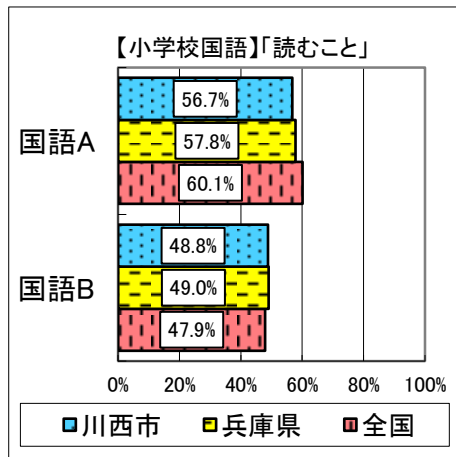
このことを改善する方法として、国語科の学習時に理解を深めるとともに、学級で行うスピーチや国語の学習での発表などでは、意図的に工夫する方法を紹介し、効果的な表現方法を取り入れた発表を行い、聞く側も工夫の効果を意識した聞き方をするなどの取組が有効です。



川西市の「書くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は、1.1ポイント、国語B（活用）は0.2ポイント低く、A・Bともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)資料を読み、分かったことを的確に書く。
- ◆ (B)目的や意図に応じ、複数の内容を関係付けて自分の考えを具体的に書く。

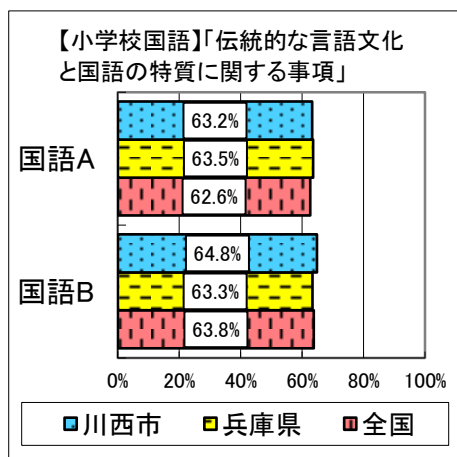
- ◇ 表やグラフの表題、凡例、特徴的な変化などから、資料からわかったことを的確に読み取ることは多くの児童が理解しています。
- ◆ それらのわかったことと自分の考えを関連付けて、自分の考えを書くことに課題があります。情報を読み取ることはできているので、読み取った情報に対する自分の考えを明確に区別して書く場面の設定が重要です。自分の考えを明確にすることができれば、条件（字数制限等）に合わせて、内容をまとめることができるようになります。



川西市の「読むこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は3.4ポイント低く、国語B（活用）は0.9ポイント高い結果であり、A・Bともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)文章を読み、特徴を捉える。
- ◆ (B)2つの文章を比べて読み、違いの理由を捉える。

- ◆ 目的に応じて本や文章を読むためには、相手の意図や目的を考えることが大切です。そのために文や文章の構成や表現などの工夫を確認する場面を設定すること、構成や表現を工夫して紹介や推薦文などを実際に書いてみるなどの活動が重要です。



川西市の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は0.6ポイント、国語B（活用）は1.0ポイント高く、A Bともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む。
- ◆ (A)文と文の意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書く。

◆ 複数の内容が含まれる文を主述の関係、修飾と被修飾の関係など分析的・統合的に理解することには、課題があります。指導にあたっては、各学年の発達段階に応じた指導が必要です。

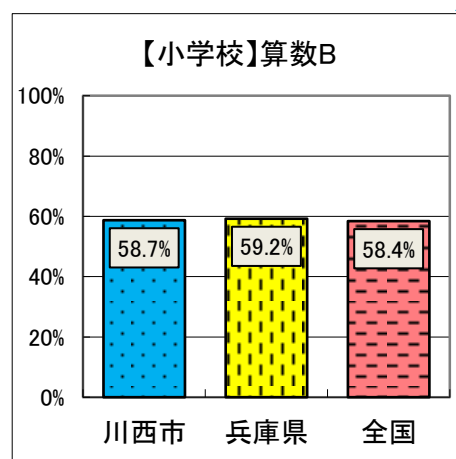
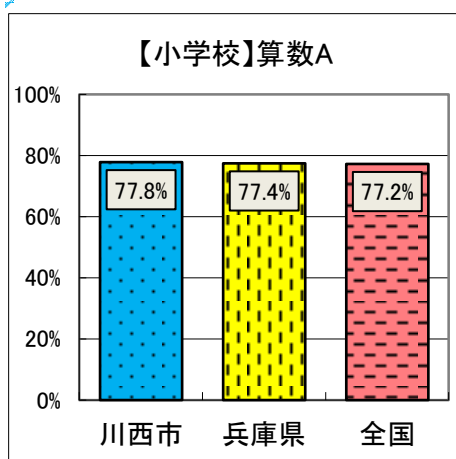
1・2年生では、主語と述語に印をつけるなどして、主述の関係を理解するための指導、3・4年生では、修飾と被修飾の関係を理解するべく主述の関係に加えて5W1H（「いつ」「どこで」「誰が」「何を」「なぜ」「どのように」）などの観点で文を捉える指導、5・6年生では既習事項から2つ以上の内容の文を必要に応じて1つの文にしたり、内容ごとに複数の文に分けたりするなど、実際に子どもたちが文（言語）を操作する指導を継続して行っていくことが大切です。

※ ◇：多くの児童が理解している内容 ◆：課題のある内容 ()の記号は、A：国語A B：国語B

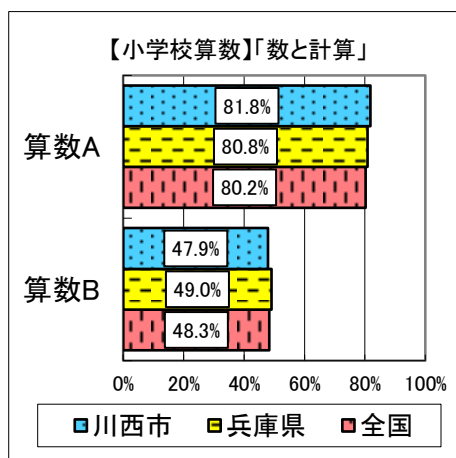
【小学校算数】

① 算数A（知識）及び算数B（活用）の平均正答率

川西市の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は0.6ポイント、算数B（活用）は0.3ポイント高く、A Bともに概ね良好です。



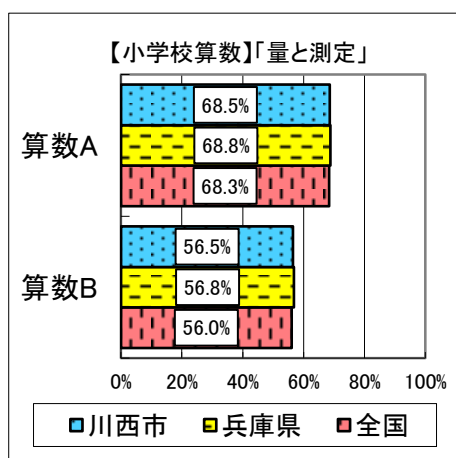
② 領域別平均正答率



川西市の「数と計算」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は1.6ポイント高く、算数B（活用）は0.4ポイント低い結果であり、A Bともに全国と同程度の結果です。

◇ (A) 整数、小数、分数の四則計算を行う。

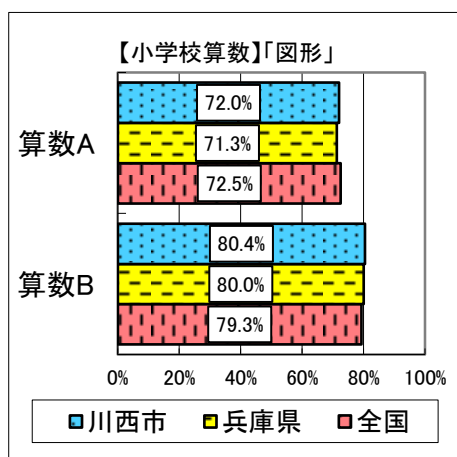
- ◇ 整数、小数、分数の四則計算を行うことは、多くの児童が理解しています。
- ◆ 全国も同様の傾向ですが、立てた式の意味や理由などを選択したり記述したりすることに課題があります。まず、問われている事柄を確認すること、示されている条件を1つ1つ把握することが重要です。筋道を立てて考えた過程について、全員が自分の考えを記述する場面を設定すること、説明（表現）する場面を設定することが大切です。



川西市の「量と測定」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）0.2ポイント、算数B（活用）は0.5ポイント高く、A Bともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A) 台形の面積の求め方を理解している。
- ◆ (B) 示された数値や図形が正しいことを理由とともに説明する。

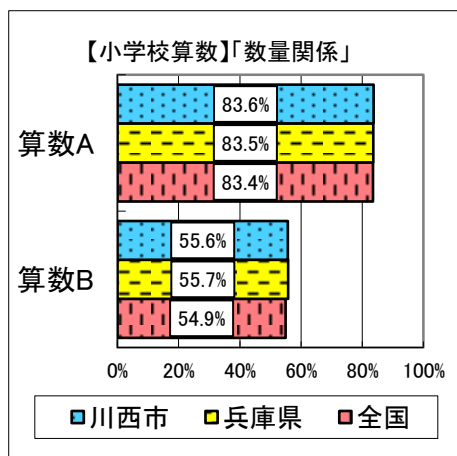
- ◇ これまでの調査の中で、面積の求め方を理解している児童の割合が低く、課題とされてきましたが、今調査では求積に必要な情報を選択することは多くの児童が理解しています。
- ◆ 示された数値や図形が正しいことを、理由とともに説明することには課題があります。これは、いずれも前問で示された規則や事実が他の場面でも当てはまるかどうかを問う問題です。基にしている規則や事実を問われている場面の図や表に当てはめ、成り立つのか否かを調べるだけにとどまらず、その理由を考え、記述する活動が重要です。



川西市の「図形」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は0.5ポイント低く、算数B（活用）は1.1ポイント高い結果であり、ABともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (B)図形の分割や同面積の説明について、示されたものの中から正しいものを選択する。

- ◇ 「図形」領域の指導にあたっては、具体物の操作や作製を通して考えたり、自分の考えを表現し伝えたり、図と言葉とを関連される学習の充実が大切です。今後も引き続きこのような学習活動を積極的に取り入れていく必要があります。



川西市の「数量関係」領域の平均正答率を全国と比較すると、算数A（知識）は0.2ポイント、算数B（活用）は0.7ポイント高く、ABともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A) () を用いた整数の計算をすることができる。

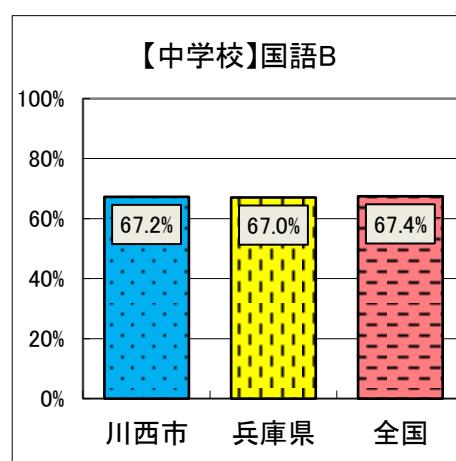
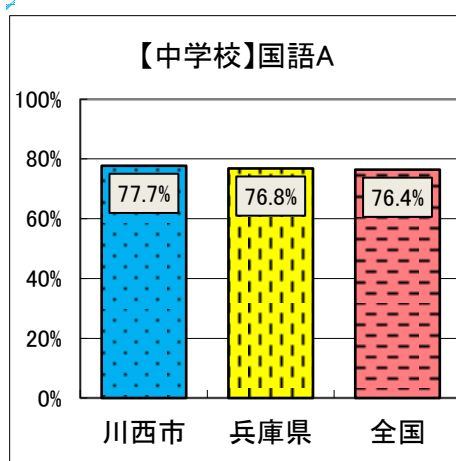
- ◇ () を用いた整数の計算については、多くの児童が理解しています。計算の順序についてのきまりの理解をより一層深めるために、たし算ひき算の混合した計算だけでなく、かけ算わり算を含めた四則混合の計算をする指導の充実を行っていく必要があります。

※ ◇：多くの児童が理解している内容 ◆：課題のある内容 ()の記号は、A：算数A B：算数B

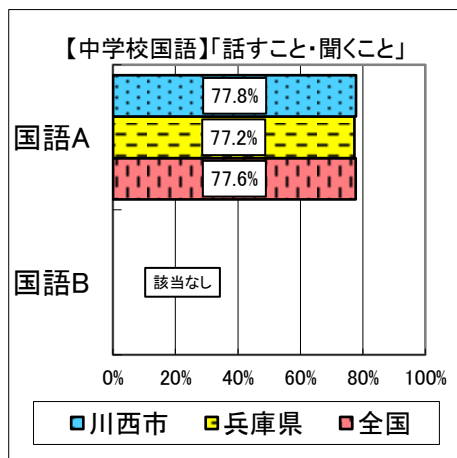
【中学校国語】

① 国語A（知識）及び国語B（活用）の平均正答率

川西市の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は1.3ポイント高く、良好です。国語B（活用）は0.2ポイント低く、概ね良好です。



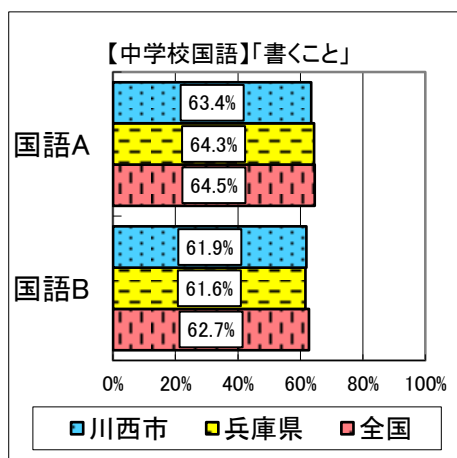
② 領域・事項別平均正答率



川西市の「話すこと・聞くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は0.2ポイント高く、全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)話の概要について聞き取ることができる。

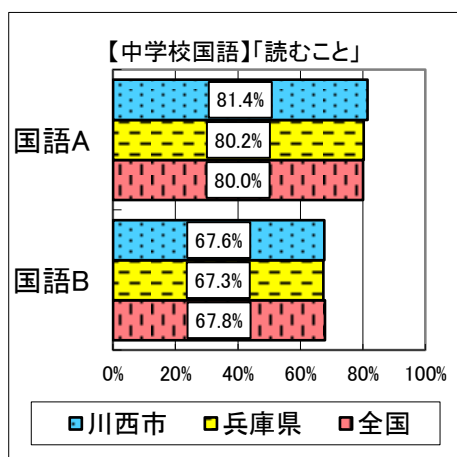
- ◇ 文章や話し合いのなかで、相手が言ったことや書いたことを理解することは多くの生徒が理解しています。実際の学校生活においては、発言者や記述者の意図を問い返したり、状況に応じて発言したり、論理的でわかりやすく話す構成や展開を工夫するように引き続き指導していくことが大切です。



川西市の「書くこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は1.1ポイント、国語B（活用）は0.8ポイント低く、A Bともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)段落の構成を考えて文章を構成する。
- ◆ (A)出された意見を整理して、文の接続に注意して伝えたい事柄を明確にして書く。

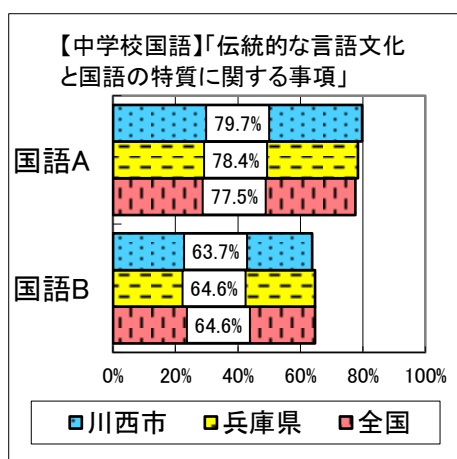
- ◇ 意味のまとまりや段落の役割を考えて文章を選択したり、自分で書いたりすることは多くの生徒が理解しています。
- ◆ 客観的な事実や相手の書いた文章などを整理して、自分の考えを書くことには課題があります。まずは、目的に応じて伝えたいことを明確にして、資料中の事実と意見を区別したうえで文章を書く必要があります。実際の書き方については、新聞や白書などの書き方や情報の扱い方を参考にし、自分の表現に活かして書くことが大切です。また、互いの文章を読み合い、助言し合ったりすることで、表現力の向上につながります。



川西市の「読むこと」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は1.4ポイント高く、国語B（活用）は0.2ポイント低い結果であり、ABともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)文章の描写や表現などの特徴を捉える。

物語などにおいては、筆者の感想や感慨、表現技法など、説明文などの実用的な文章においては、目的に応じて必要な情報を見出しや項目に着目して、条件に当てはまるものを複数の情報から選ぶなど、文章の種類に応じた観点をもって読むことは多くの生徒が理解しています。



川西市の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」領域の平均正答率を全国と比較すると、国語A（知識）は2.2ポイント高く、国語B（活用）は0.9ポイント低い結果であり、ABともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)文脈に即して漢字を正しく書いたり、読んだりする。
- ◇ (A)文脈に即して敬語を適切に使う。

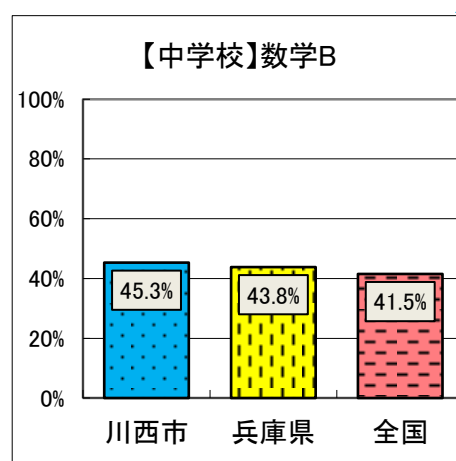
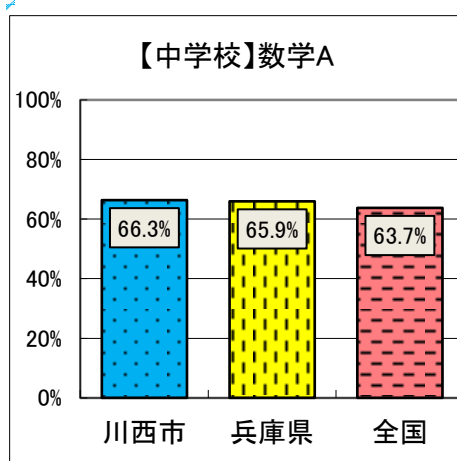
- ◇ 漢字を正しく書いたり、読んだりすることは多くの生徒が理解しており、今後も熟語や文脈の中での意味を理解しながら、学習することを引き続き大切にしていく必要があります。
- ◆ 敬語の学習では、子どもたちが実際に使う場面や言葉を取り上げ、尊敬語や謙譲語にどのように言い換えるのか考えること、実生活における使用及び指導していくことを引き続き行っていくことが大切です。

※ ◇：多くの生徒が理解している内容 ◆：課題のある内容 ()の記号は、A：国語A B：国語B

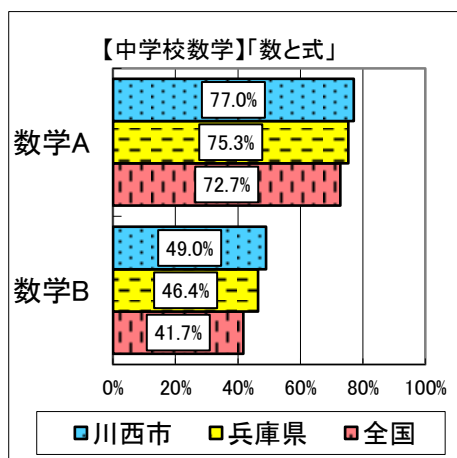
【中学校数学】

① 数学A（知識）及び数学B（活用）の平均正答率

川西市の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は2.6ポイント、数学B（活用）は3.8ポイント高く、A Bともに良好です。



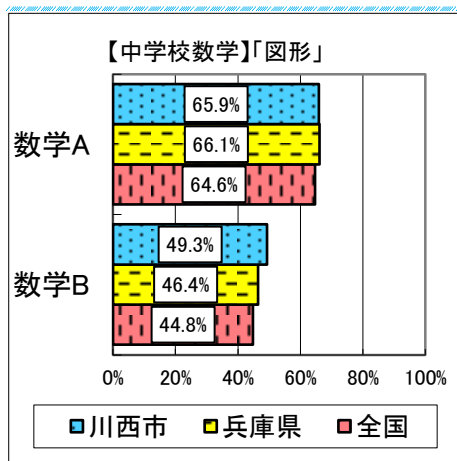
② 領域別平均正答率



川西市の「数と式」領域の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は4.3ポイント高く、全国と同程度の結果です。数学B（活用）は7.3ポイント高く、全国を上回る結果です。

- ◇ (A) 四則計算を行う。
- ◆ (B) 事象を式の意味に即して解釈し、示された方針に基づいて説明することができる。

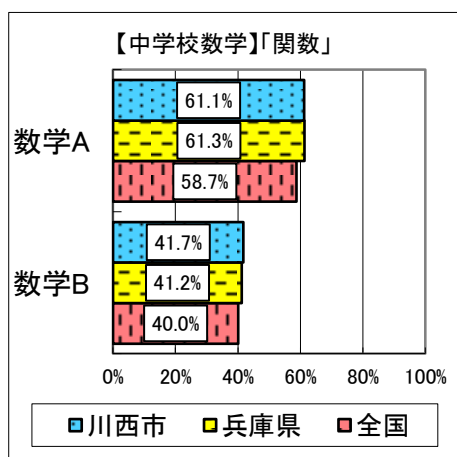
- ◇ 正負の数を含む、四則演算は多くの生徒が理解しています。四則演算は、文字式や方程式、比例や関数などの学習の基盤となるので、今後も確実に行うことができるように指導していくことが大切です。
- ◆ 与えられた式（文字を含む）の解を求めることは多くの生徒が理解していますが、問題文の事象を数学的に表現（文字式化）することに課題があります。しかし、全国と比較すると平均正答率は高く、今後も数量の関係を表す式を事象（問題文）に即して解釈できるように、考える場面、伝え合う場面を設定することが大切にしていきます。



川西市の「図形」領域の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は1.3ポイント、数学B（活用）は4.5ポイント高く、A Bともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A) 見取図、投影図から空間図形を読み取ることができる。
- ◆ (B) 与えられた条件を用いて、図形の証明を行うことができる。

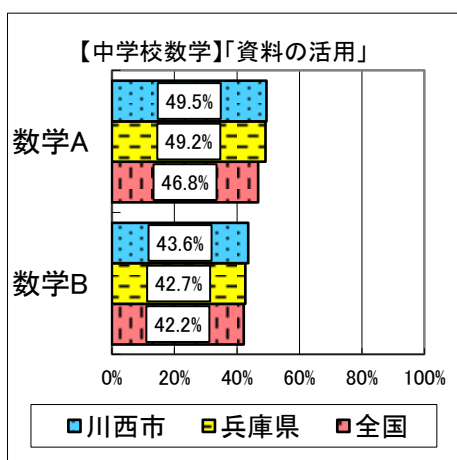
- ◇ 見取図、投影図の学習においては、実感を伴って理解できるようにすることが必要であり、身近な立体に触れ、観察や操作を行うことが大切です。今後も、実感を伴って理解していくことを継続していきます。
- ◆ 与えられた条件をもとに図形の証明を行うことに課題があります。また、無回答の生徒に割合が高いこともこの問題の特徴的な傾向でした。証明の学習をする際、証明の過程を振り返ったり、根拠となる性質を見直したりして、新たな方針を立てるなどの学習が大切です。



川西市の「関数」領域の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は2.4ポイント、数学B（活用）は1.7ポイント高く、ABともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (A)x の値から y の値を求めることができる。
- ◆ (B)事象について関数を用いて解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。

- ◇ 与えられた表やグラフから必要な数値や情報を取り出したり、x に対応する y の値を求めたりすることは多くの生徒が理解しています。
- ◆ 具体的事象について関数を用いて解釈することに課題があります。これは、単純化することにより、事象の変化の様子やついて予測したり、特徴を捉えたりすることができるようにすることが大切です。複数の要素を単純化・理想化し、数学を使って解を出す活動を、各学年各領域において取り入れていくことが大切です。



川西市の「資料の活用」領域の平均正答率を全国と比較すると、数学A（知識）は2.7ポイント、数学B（活用）は1.4ポイント高く、ABともに全国と同程度の結果です。

- ◇ (B)資料からわかる情報を読み取ることができる。
- ◆ (A)ヒストグラムから相対度数を求めることができる。

- ◇ ヒストグラムに表された階級や度数を正確に理解し、必要な情報を読み取ることができることは多くの生徒が理解しています。
- ◆ ヒストグラムから相対度数を求めることには課題があります。この問題については、度数や階級値と思われる数値を解答している生徒や無解答率が25.1%と高いことから、相対度数の意味自体を理解していない生徒が多いと考えられます。このことから、相対度数の必要性和意味について理解を深められるように指導する必要があります。

※ ◇ : 多くの生徒が理解している内容 ◆ : 課題のある内容 ()の記号は、A : 数学A B : 数学B

(6) 過去4回の調査結果の推移

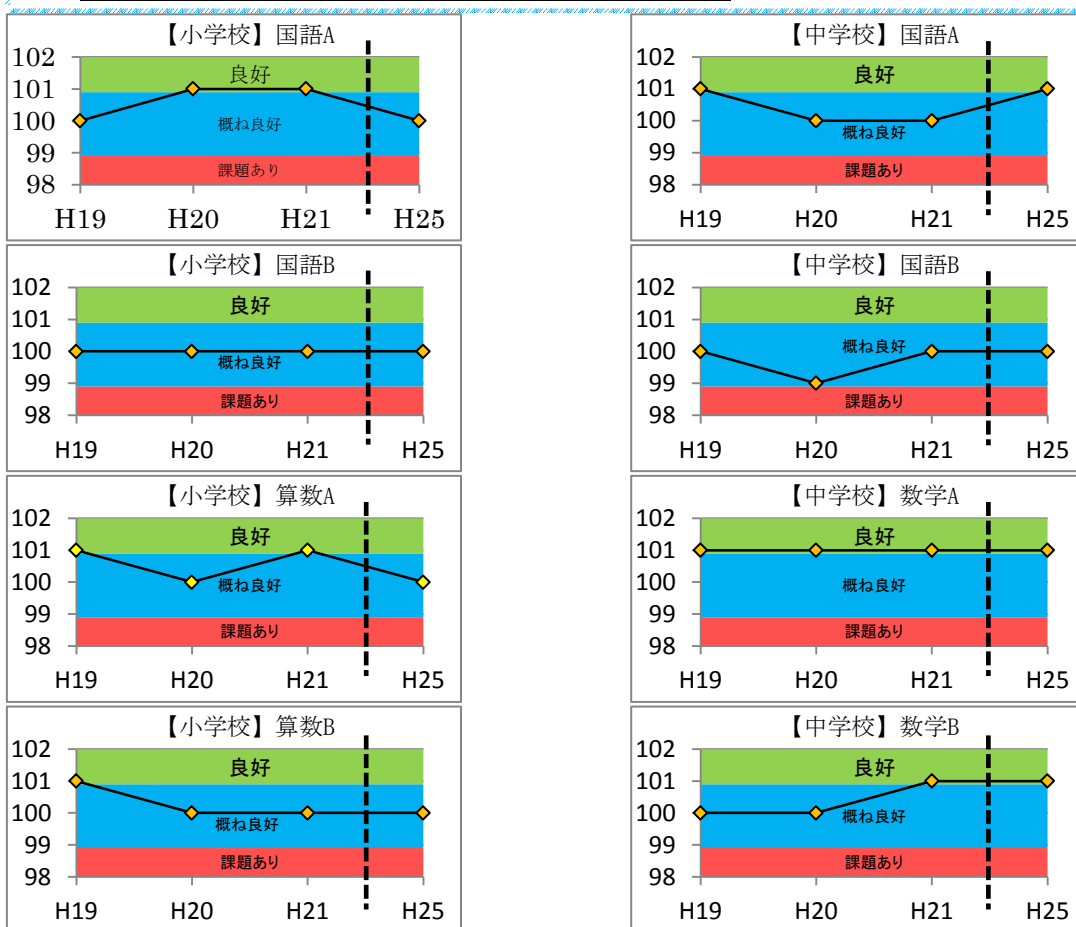
これまで悉皆調査であった4回の全国学力・学習状況調査における川西市の標準化得点から認められる傾向は以下のとおりです。

【小学校】

- 国語、算数のA（知識）・B（活用）ともに、概ね良好な状態で推移しています。

【中学校】

- 国語A（知識）・B（活用） ともに、概ね良好な状態で推移しています。
- 数学は、A（知識）・B（活用） ともに、良好な状態で推移しています。



※ 縦軸の数値は、各年度における全国の平均正答数が100になるようにした標準化した場合の得点です。

※ 平成22年度から24年度は、抽出調査もしくは未実施であったため掲載していません。

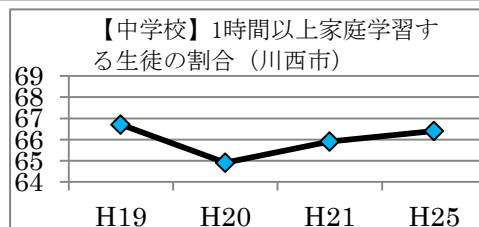
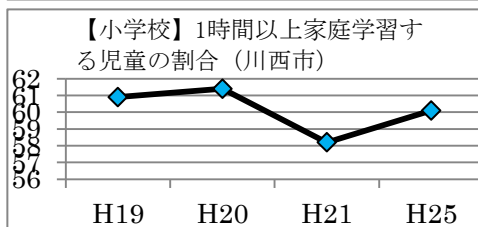
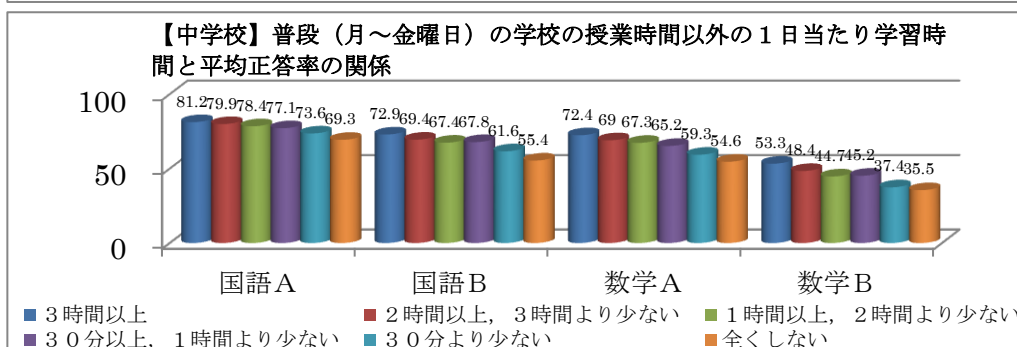
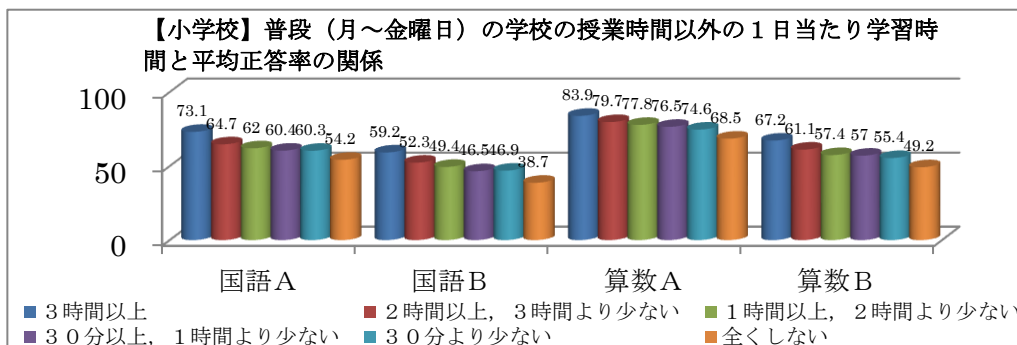
全国的に学力向上の傾向が続くなかで、川西市は全国と比較して良好な状態で推移していることから、川西市の児童生徒の学力は上昇傾向にあるといえます。

今後につきましては、各年度の結果及び経年変化等を横断的に分析し、「良好」なものはさらなる向上、「概ね良好」としているものについては課題点の分析及び改善につなげるべく、今後も取り組んでいきます。

(7) 平成 25 年度生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果の概要

① 教科に関する調査結果において正答率が高い傾向が見られる質問項目
【小中学校に共通する質問項目】

- 学校の授業時間以外に、普段（月～金）の学習時間が長い。



家庭学習の時間が長い児童生徒の方が、学力が高いという傾向がみられます。平成 19 年度調査結果より平成 21 年度調査結果の推移のなかで、1 時間以上家庭学習する児童生徒の割合が低下していたことから、

教育委員会では、

- 家庭学習ハンドブック発行による家庭学習啓発
- 支援員を派遣している「きんたくん学びの道場」実施

各学校では、

- 平日の宿題や週末課題を計画的に課し、家庭学習習慣の定着
- 教職員や地域ボランティアの方々の協力をいただいて放課後学習等の実施などを行っており、1 時間以上家庭学習をする児童生徒の割合は平成 21 年度と比較して上昇しています。

今後も教育委員会・各学校が行う取り組みの検証改善及び各家庭における家庭学習の習慣化など、私たちおとなが子どもたちの学習習慣を支援することでさらなる学力向上につながると考えられます。

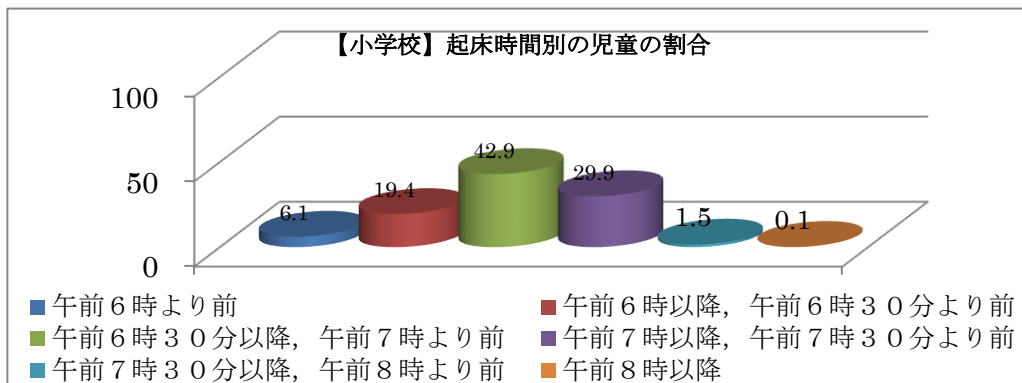
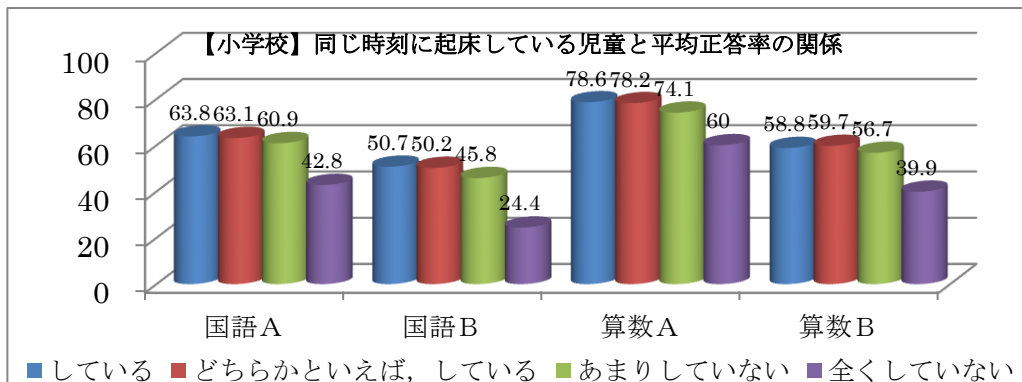
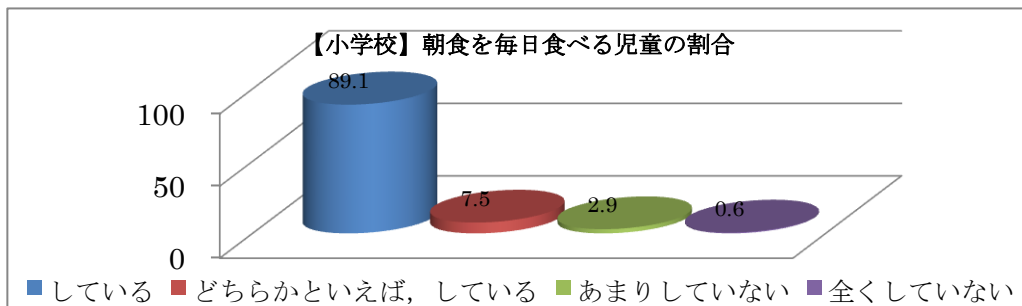
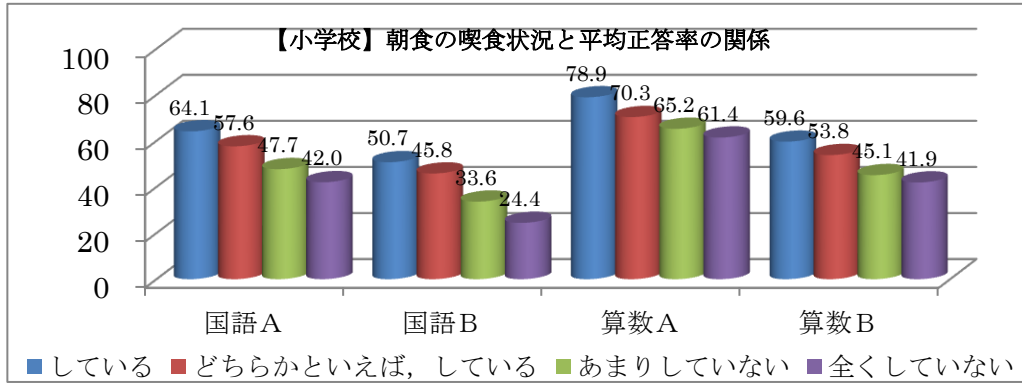
その他にも、以下のような児童生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- 普段の授業では、自分の考えを発表することができる。(機会がある)
- 国語、算数・数学の授業の内容がよく分かっている。
- 今回の国語、算数・数学の問題について、解答を文章で書く問題に対して、最後まで解答を書こうと努力した。

学校の授業を理解できている児童生徒の方が、学力が高いという傾向が見られます。教育委員会では夏季研修を中心に教職員の資質向上研修の充実、学校においては校内研修等の充実を図り、児童生徒一人ひとりが基礎的学習内容を理解できるようにすべく授業力向上に努めてまいります。

【小学校のみに該当する質問項目】

- 朝食を毎日食べている。
- 毎日、早起きをしている。



早寝・早起き・朝ごはんなどの基本的な生活習慣については、その重要性はこれ

までも言われてきたことではありますが、小学生ではより学力との相関関係が高いという結果が顕著に見られました。川西市の児童の基本的な生活習慣については、各家庭での取り組み及び学校における生活指導等によって、良好な状態が続いており、今後も継続していくことで学力の維持・向上が見込まれます。

その他にも、以下のような児童の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。
- 土曜日や日曜日など学校が休みの日の学習時間が長い。

子どもたちがものごとに対する成功体験は、子どもたちの自尊感情を育み、主体的な取り組みにつながる態度の育成につながります。こうした物事への主体的な取り組みは、小学生の学力との相関関係の高さのみにとどまらず、中学校生活においても非常に重要な要素です。

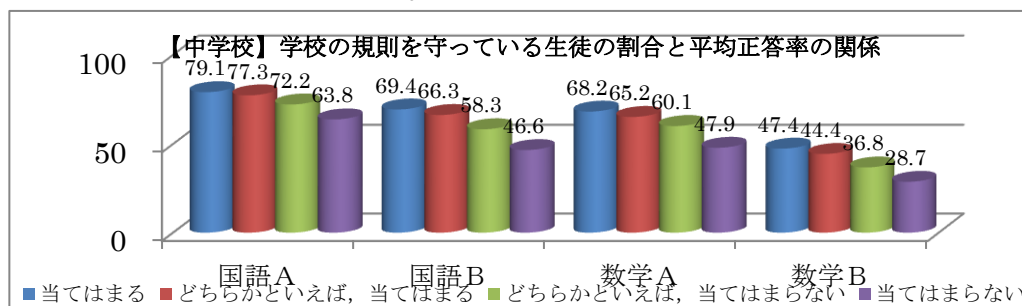
川西市においては、

- 小学3年生「環境体験学習」、4年生「里山体験学習」、5年生「自然学校」、6年生「修学旅行」、中学1年生「わくわくオーケストラ」、中学2年生「トライやる・ウィーク」、中学3年生「修学旅行」といった体験型学習の実施
- 各種行事における成功体験、問題解決型の授業実践等の充実などに取り組んでいます。今後も、子どもたち同士が相談し、課題解決していけるような主体的な取り組みになるように充実を図っていきます。

各家庭においては、子どもたちの発達状況に応じた家庭内での役割、実体験を伴う活動等、子どもたちが主体となって活動できることを考えていくことが大切です。

【中学校のみに該当する質問項目】

- 学校の規則を守っている。



小学生が基本的な生活習慣と学力の間に高い相関関係がありましたが、中学生においては基本的な生活習慣に加えて、安定的な学校生活を送ることと学力の間に相関関係が見られます。

その他にも、以下のような生徒の方が、正答率が高い傾向が見られます。

- 国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由がわかるように気を付けている。
- 国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを工夫している。
- 数学ができるようになりたいと思っている。
- 数学の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考える。
- 数学の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法を考える。
- 数学の授業で公式やきまりを習うとき、その根拠を理解しようとしている。

中学校における教科に関する調査と相関関係の高い質問は授業に関する項目が大部分を占めています。

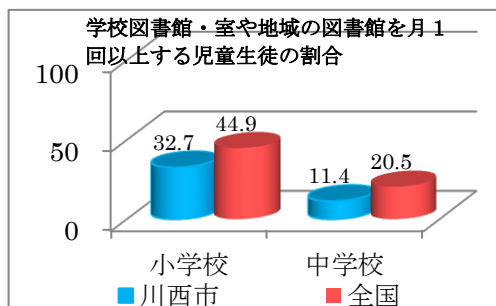
いずれの質問項目も、「確かな学力」の一側面である自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する学ぶ意欲の育成には、不可欠な要素であり、今調査の結果を真摯に受け止め、国語・数学のみならず学校教育活動全体に意識的に組み込んでいく必要があります。

② 本市の児童生徒が極めて高い肯定的な回答を示した質問項目

- ものごとを最後までやり遂げて、嬉しかった経験がある。
(小：94.7、中：93.1)
- 学校で友だちに会うのは楽しいと思う。(小：96.4、中：94.9)
- 学校のきまりや規則を守っている。(小：87.9、中：92.6)
- 人の気持ちが分かる人間になりたいと思う。(小：93.4、中：94.6)
- 人の役に立つ人間になりたいと思う。(小：93.7、中：92.0)

③ 全国と比較して、本市の特徴的な傾向を示した質問項目

- 本を読んだり、借りたりするために、学校図書館・室や地域の図書館に月1回以上行く。(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)



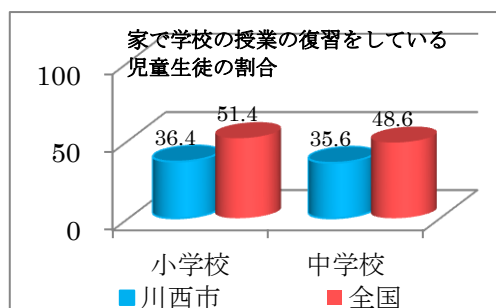
学校図書館・室や地域の図書館を月1回以上利用する割合が児童生徒ともに全国と比較して、10%前後低い結果となっています。このことを受けて、

教育委員会・学校では、

- 今年度より各校に配置している「学校司書」の活用による学校図書館の充実
- 学校図書館蔵書の拡充
- 中央図書館と各学校の連携を強化し、団体貸し出しや連携行事などの充実などに取り組み、児童生徒の読書環境の整備をすすめます。

各家庭におかれましては、読書をする時間を家庭で決めることや同じ本を読んで感想や内容について自分の考えを話し合うなど、ともに読書を楽しむ曜日や時間をつくってみるなどすることも大切です。

- 家で学校の授業の復習をしている。



家庭で学校の授業の復習をしている児童生徒の割合は、全国と比較して10%以上低い結果となっています。宿題をきちんとやっている児童生徒の割合は全国と比較して大差なく、自主的な学習の実施率に課題があると言えます。この結果を受けて、

教育委員会では、

- 教育委員会発行の「家庭学習ハンドブック」の改訂及び幅広い啓発

各学校では、

- 自主学習ノートや課題別プリントなど、発達段階に応じた自主学習の推進

ご家庭では、

- 家庭において決められた学習時間の設定など、家庭において自主学習を行う環境設定

など、学校・家庭など多方面からの子どもたちへのアプローチが必要であると考えます。

(8) 調査結果と今後について

変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちには、「生きる力」を育むことが必要です。「生きる力」とは、変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに身に付けさせたい「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の3つの要素からなる力です。

教育に求められているのは、生涯にわたる学習の基礎を培うという観点に立って、子どもに基礎的・基本的な内容を確実に身につけさせ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力（確かな学力）、自らを律しつつ、他人と共に協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性（豊かな心）、たくましく生きるための健康や体力（健やかな体）などの「生きる力」をはぐくむことです。川西市においても、主に学校において育むべき能力として「確かな学力」という「生きる力」の知的側面のみならず、「豊かな心」「健やかな体」も含めた全人的な学力を「学力」と定位したいと考えます。

本調査において国は、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的としています。このように調査結果は、全国と比較した相対的な位置などに一喜一憂するものではなく、川西市の子どもたちの「生きる力」を育むための第一歩であり、わたしたちおとなが子どもたちのために環境を整えることが重要であると考えています。

川西市教育委員会では、全国的な状況との関係及び川西市の経年変化などから、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立します。

- ① 川西市の児童生徒の客観的状況を把握する「川西市習熟度調査」の実施
- ② 小1プロブレム・中1ギャップ解消に向けた「幼小中連携推進事業」の実施
- ③ 家庭学習支援に向けた「きんたくん学びの道場」の実施・拡大
- ④ 言語活動の礎となる読書活動の充実に向けた「学校司書」配置、学校図書館蔵書拡充
- ⑤ 子どもたちの自立支援の推進に向けた川西市独自の体験活動事業の「里山体験学習」や「先輩に学ぼう！」の実施

などの方策を推進し、「川西の教育」に示す「めざす人間像」、「5つの基本方針」を実現すべく取り組みます。

学校では、調査結果を踏まえて、「学力向上総合プラン」を策定します。

- ① 子どもたちが学びたいと意欲をもって臨める「わかる授業」づくりの充実
- ② 安心で安全な環境に向けた「授業規律」の確立
- ③ 基礎・基本の定着に向けた「学習タイム」の充実
- ④ 教職員の指導力向上に向けて「校内研究」の充実
- ⑤ 学校での学習と家庭学習をつなげる「自主学習」支援

- ⑥ 子どもの豊かな心を育むための「言語活動(コミュニケーション能力)」、「道徳教育」、「体験活動」の充実
などの方策を位置付け、全職員一丸となって、児童生徒への教育指導の改善に取り組みます。

地域におきましては、社会全体で子どもたちを育てる環境づくりを期待します。

- ① 子どもの安全確保に向けた「子どもの見守り」の充実
- ② 社会全体で子どもを育む「子育てや親の育ち」の支援
- ③ 子どもたちの自立支援の推進に向けた「仕事」のやりがいや楽しさを伝える活動の展開
- ④ 地域への帰着意識向上に向けた「伝統的な行事」の展開
- ⑤ 学校以外の学びの場として「読書活動(読み聞かせ等)」「放課後こども教室」の展開

など、学校教育の中だけでは実現することができない側面の支援をご協力いただきたいと思います。

家庭におきましては、子どもたちの豊かな情操を育む基礎的な資質や能力の育成を期待します。

- ① 子どもたちの健やかな育ちに向けた基本的な生活習慣の確立
- ② 自ら学び、考える力を育む家庭学習習慣の定着
- ③ 言語活動、豊かな人間関係の礎となる親子読書などの家族で一緒に取り組むことのできる活動の促進

子どもたちとともに取り組んでいただきますようお願いいたします。できたことをほめて、子どもたちのやる気を高め、主体的な行動を促すことは、自立した人間に育つためにも重要な要素です。

ご理解・ご協力をいただきますよう、よろしく願いいたします。

